

RUBeC 演習を終えて

新城 大輔

Daisuke SHINJO

情報メディア学専攻修士課程 1年

1. はじめに

私は、2017年8月20日～9月2日の約2週間、龍谷大学北米拠点（RUBeC）にて行われる RUBeC 演習に参加し、英語によるテクニカルライティングとプレゼンテーションの学習、ならびにカリフォルニア大学デービス校と Keysight Technology 社への訪問を行った。今回はこれらの学習内容と企業・協定校訪問について報告する。

2. 授業内容

授業を担当する講師はどちらもネイティブスピーカーであり、日本語は通じない。授業は原則、日本語禁止であり、質問や発言を積極的にするように求められた。

2.1 テクニカルライティング

事前に作成した自身の研究内容についての英文要旨を修正するため、英文法の基礎や読み手により興味を持ってもらえるような文の構成について教わった。英文法について、“a”、“an”や“the”といった冠詞の違いによって文から捉える意味が変わってくることを学んだ。冠詞は日本語にはほとんどなじみのない表現であり、常に確認しながら文章を作成する必要があった。また、どの接続詞を使用すれば、より学術的な文章になるのかなどを学んだ。より正しい単語や表現の選択は辞書を用いた翻訳だけでは判断できない部分もあり、ネイティブの人に読んでもらいどのような印象を受けたかを聞けることができたのは非常に良い学習となった。英文要旨の修正においては、講師の先生は工学の専門でないため、まず自分の研究について英語で伝える必要がある、難しい作業であったが、修正後の英文要旨はよ

り良いものとなったように思う。

2.2 プレゼンテーション

最終日の英語によるプレゼンテーションに向けて、まず英語の発音やストレスについて学んだ。“l”と“r”の発音はもちろんのこと、ストレスの違いによって英単語の品詞が変わってくるものもあることを学んだ。いわゆるカタカナ英語に慣れてしまっている自分にとっては難しい授業であったが、いかに自身の英語が伝わりにくいのかを知ることができた。プレゼンテーションの原稿においても、意味を誤解されないような文章の区切りや、より明確に伝えるために文中のどこにストレスを設けるかを教わった。プレゼンテーションでは、Google のホームページに例えてシンプルかつ、わかりやすいスライドの作成方法を学び、自身のスライドを修正した。また、アイコンタクトやジェスチャーを使って、聴衆を惹きつけるための発表の練習を行った。最終日の発表は、今まであまり意識していなかった聴衆を見ながらの身振り手振りの発表ができ、5分間という短い時間の発表だったが非常に良い経験になったと思う。

3. 協定校・企業訪問

3.1 カリフォルニア大学デービス校（UC Davis）

UC Davis のキャンパスは約 22 km² もの広大な敷地をもち、州都サクラメントから車で 20 分、タホ湖やナババレーへは 2 時間以内にアクセス可能な場所にある。今回の見学で話を聞いたのは大学院の学部の 1 つの工学部で、工学部だけでもその研究支出は約 1 億円ある。大学院のプログラムは 10 個あり、それぞれ特徴のあるプログラムとなっている。例えばプログラムの 1 つである Transportation Technology and Policy では環境に配慮した運輸技術の研究やそれに伴った政策の提案を行っている。最近ではカーボンフットプリントについての政策の提案を行った。1 大学が政策についての影響を及ぼすことができる背景には大学の研究力の高さはもちろんのこ

と、州都に近いキャンパスの立地や環境保護政策を優先的に行っているカリフォルニア州の方針によることも大きいとのことである。また、専攻や研究分野の枠に囚われずに数多くの分野でコラボレーションを行っている様子が見受けられた。とても自然豊かなキャンパスには劇場やスポーツジムも存在し、勉学以外のさまざまな体験を提供しており、学生生活を過ごす上でとても恵まれた環境だと感じた。

3.2 Keysight Technology 社

Keysight Technologies 社は、今ではコンピュータ分野で有名なヒューレット・パッカド社から独立してできた会社であり、オシロスコープやネットワーク・アナライザなどといった電子計測機器事業を専門に行っている。私たちは IC チップのテストを行う工程についての説明を受けた。IC チップのレイヤー数にもよるが検査項目はかなりの数に及び、問題が起きた際はその項目をすぐに確認・修正できるような体制が整っており、商品の信頼性についてかなり厳格に確認しているという印象を受けた。またそのチェックの機器のほとんどが Keysight 社製であり、計測事業のほとんどを行っていると改めて確認できた。今回、Keysight Technologies 社の企業視察を通してアメリカの企業の社風や雰囲気が直接感じ取れて大変良い経験になった。社内はとても広く、従業員用のジムやバスケットコートがあり、家庭菜園が行えるようなスペースもあった。また、社

内で定期的に写真コンテストも行われていて、入賞した作品が社内の廊下に飾ってあり、アットホームな雰囲気だと感じた。案内して頂いた従業員もみな自分の仕事を説明している時にとっても楽しそうに説明している姿が印象的だった。今回の経験で、海外で働くということをより身近にイメージすることができた。

4. おわりに

今回の演習では自身の英語能力が確認でき、自分の英語が英語圏の人にどうして伝わりにくいかを体験して知ることができたのが一番大きな収穫だったと思う。また、日本とは違う文化に触れることができたのは、今後グローバル化していく社会で活躍していくうえで非常に良い経験となった。今後も、この経験を活かして語学力の向上に励んでいきたい。



図1 RUBeC 演習終了後の集合写真